

11 歯科衛生士学科入学時基礎学力調査の年次推移から — 基礎学力向上のための『歯科医学の基礎』を導入して —

平澤明美

明倫短期大学 歯科衛生士学科

keywords : 入学時基礎学力, 計算力, 国語力, 初年次教育

はじめに

歯科衛生士教育は、知識と技術の両面からの教育であるが、入学後、学力不足や学習意欲の減退により、退学や歯科衛生士国家試験不合格の結果となる者がいる。そこで、平成16年度より『入学時基礎学力調査』を実施し、卒業までの学習指導に役立ててきた。初年次教育の一環で本年より導入した科目の有用性と、今後の学生指導にどのように活用すべきかを検討した。

対象および方法

平成16年度～29年度に本学歯科衛生士学科に入学した1,051名を対象に実施した『入学時基礎学力調査』と、平成29年度1年57名を対象に実施した『歯科医学の基礎』の試験成績により検討した。

結果および考察

1. 入学時基礎学力調査の年次推移

平均点は平成16年度開始以降、下降傾向にあり、22年度62.9点で最低点であった。しかし27年度まで上昇したが、28・29年度と下降した(図1)。29年度生と27年度生の間には $p<0.05$ の有意な差が見られた。

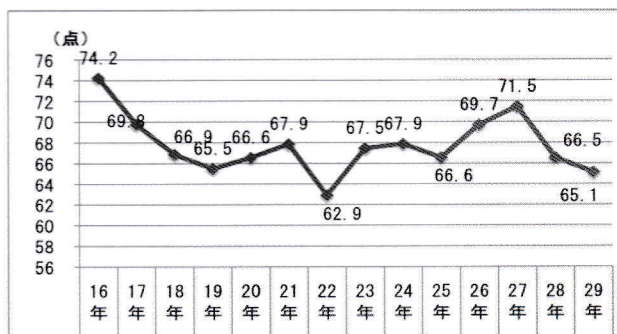


図1 入学時基礎学力調査の平均点年次推移

2. 『基礎学力調査』と『歯科医学の基礎』成績比較

1年前期前半選択科目15時間8回(計算力と国語力・医療用語)で実施し、本年は1年全員が選択した。計算力の範囲では基礎学力調査と歯科医学の基礎の成績の間には $p<0.001$ の有意な差が見られ、講義の成果が現れた。しかし国語力/医療用語の範囲では逆に $p<0.05$ の差が見られた。基礎学力調査では医療用語が含まれていないため、講義で初めて学習した用語が多いため効果がなかったと思われる(図2)。

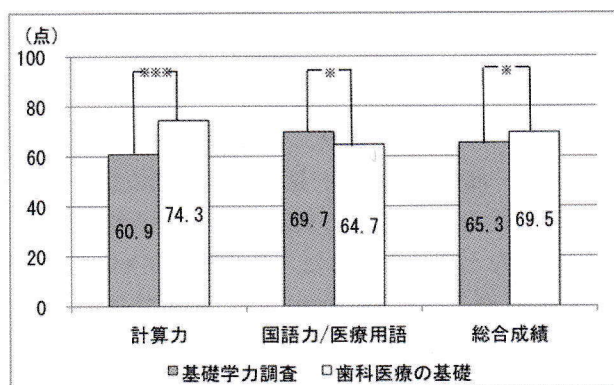


図2 『基礎学力調査』と『歯科医学の基礎』成績比較

まとめ

本年度より初年次教育の一つとして『歯科医学の基礎』を導入したが、基礎学力・計算力の向上には効果が認められた。しかし国語力/医療用語においては期待できる効果を得ることは難しかった。今後の課題として、医療用語の理解は勿論であるが、国家試験で問題となる文章を読み解く能力を養うカリキュラムを、早急に構築する必要があると示唆された。